

平成 28 年度 第二回生活支援・介護予防サービス推進協議会

平成 28 年 11 月 17 日（木）午後 2 時

庁舎 3 階 302 会議室

（意見等）

（1）射水市生活支援・介護予防サービス体制整備に係る取り組み経過について

（2）第 2 層（地域包括支援センター圏域）生活支援コーディネーターの配置について

○新湊西地域包括支援センターの担当圏域の高齢者人口が、断トツに多いが問題はないのか。

→新湊の担当圏域で放生津地区については新湊西包括と新湊東包括が地域を分けて担当している。提示した表では、新湊西地域包括支援センター担当地区に一括して入れたものになっているため圏域高齢者数が突出して多くみえることとなった。新湊西地域包括支援センターと大門・大島地域包括支援センターについては、高齢者人口が多いので、センター職員が 1 名加配となっている。

（3）総合事業指定サービス事業の進捗状況について

○本来であれば、通所介護は在宅で生活していくために、手段として利用していくというサービスだが、そこに行くというのが、利用者の生活スタイルに現在はない。そこに行けば、お友達に会える、話ができるという最中、「要支援だから、うちとこの事業所はやらないから、もう来られませんよ」というのでは、これまでの生活スタイルを崩してしまうのではないかと思ひ、そうならないために現行型も緩和型もしていかななくてはならないと思ひている。予算的な部分で下がるというのはでてくるが、それでも数あるサービス事業所から当事業所を選んでいただいたお客様に対して満足していただけることをしていかななくてはならないと思ひ。

○事業所向けのアンケートについて、ホームヘルプとデイサービスの 2 つがあったが、実際に緩和型を実施するに際して、ホームヘルプとデイサービスのどちらが難しいと思われているのか。

→緩和型については、デイサービスの事業所について、どのように実施しようか悩んでおられる感じではないかと思われた。介護も支援も混在している中、現行のサービスに影響を与えないように実施するに当たって、場所を分けるのか、日を変えるのかといった具体的なことが意見交換の中ではでてきた。

○住民中心のサービス提供がでてきたときに、地域包括圏域をまたぐサービス提供になった場合、第 2 層と第 3 層の（コーディネーターの）間で上手く調整が図れていくのかという不安材料はあると思ひ。

（4）射水市地域支え合いネットワークモデル事業について

○説明会を色々されているが、感覚としてどれくらい（地域に）理解されていると

思われるか。

→理解が難しい事業ではあると思われる。申請があった地区について、事前の打ち合わせをする機会があったが、ある程度概要を把握して、やっていかれるという印象を受けた。

○第3層生活支援コーディネーターは、何人にひとり等決まっているのか。

→特には決まっておらず、役割分担していただくことも有り得るし、1人で従事していただくことも有り得ると思う。

○27振興会のうち、15の振興会が手を挙げた場合、どのようにして選考していくのか。また、現在の5振興会で終わってしまった場合、市としてはどのようにしてモデル事業を進めていくのか。

→当初目指していたのは、10地区で、それぞれの包括圏域に2地区と考えていた。

合同説明会において、趣旨や事業概要の説明をし、第1層コーディネーター、第2層コーディネーターと連携をとりつつ、各地域に働きかけをしながら、10地区を目指していきたい。15地区から手が挙げた場合については、方針としては、包括圏域ごとに2地区からと考えているので、審査をさせていただき、圏域に2地区となればと思う。

○老人クラブとしては、協力できるようなところを今後やっていければと思う。

○シルバー人材センターとして、先日市とお話をさせていただき、今後事業として取り組まなくてはならないと前向きには考えているが、懸念としては、どこまで対応できるのかという思いがある。

○包括としては今後地域の支え合い体制づくりをしていかないと、ずっと大変な思いをしていかななくてはならないと思うので、早期に地域に協議体ができ、包括とともに地域を支えていこうという地域づくりが大事ではないかと思う。法人としては、地域の一員として地域のために活動を行っていきたい。

○地域が支え合っていくということで、色々新しい制度ができてくると思うが、経済団体としては、民間企業の役割として、国民総活躍社会、地方創生等と言われているが、どういった部分で地域貢献できるのか持ち帰って考えたい。企業にとっても社員がいないと、企業活動もできないので、社員の家族の介護問題などがある中で、少子高齢化時代において、高齢者だけの世帯もあると思うので、そういった意味ですごく有り難い事業だと思う。商工会としても、できることがあれば取り組んでいきたい。

○任意事業の(5)、(6)が難しいと思う。ケアネット等既存の事業との棲み分けについて、来年度以降、住民の方から色々な意見が出てくると思う。

○その地区に相応しい、何が必要なのかということを引き出していくというような仕事が必要だと思う。それが、生活支援コーディネーターの課題になってくると思う。